



経営者・従業員の為の 健康ひとくちメモ



(公財)福井県健康管理協会 健診サ-ビス課 健康支援G 看護師 春木 美和子

子宮頸がんとう子宮体がんの違いについて

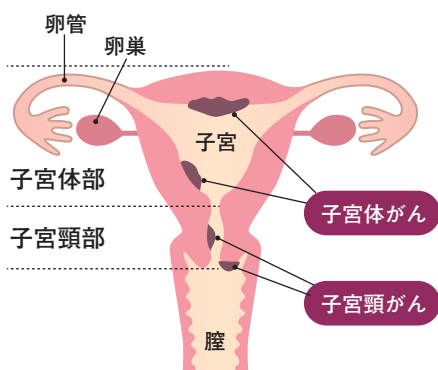
子宮がんには、子宮頸がんとう子宮体がんがあります。自治体(市町など)で行われる集団検診や、医療機関で行われている個別検診は子宮頸がん検診になります。子宮体がんとはあまり聞きなれないと思いますが、同じ子宮でも、がんの発生部位、原因、検診方法も異なります。

まず子宮頸がんの発生部位は、子宮頸部(子宮の入り口)です。好発年齢は20歳代でも発症、30〜40歳代で増加、最近では若年化の傾向がみられます。原因はHPVウイルスの感染ですから、性交経験があれば誰でもなる可能性があります。早期には症状はありませんが進行に伴い不正出血、性交出血などがみられます。検診内容は子宮の頸部(入口)の細胞を採取し顕微鏡で調べます。自治体(お住いの市町)が行う集団検診、医療機関での検診で受診可能です。

検診では多少の出血、痛みは個人差がありますが、短時間で終わるため、比較的身体的に負担は少ないと思われま

次に子宮体がんの発生部位は、子宮体部(子宮の奥、子宮内膜)です。子宮内膜がんともいわれます。好発年齢は、50〜60歳代で増加、近年は子宮体がんも増加傾向にあります。

原因は、閉経が遅い、出産歴がない、肥満、女性ホルモン剤の服用など、エストロゲンによる子宮内膜の刺激です。主症状は、これも早期は無症状ですが、主に40歳以上の不正出血、閉経後の不正出血は要注意です。検診内容は、子宮体部(内膜)の細胞採取し顕微鏡で調べます。子宮体がん検診は集団検診では受診できません。医療機関での検査が可能です。検診内容ですが、子宮頸がん検診よりも子宮の奥の細胞採取が必要となります。使用する器具も異なるため少し時間を要します。子宮頸部検診よりも痛みや出血がみられる場合があります(個人差あり)。子宮頸がんは、検診に対する啓蒙活動が進んだこともあり、比較的早期に発見される傾向にあります。それに比



べて子宮体がんは進行してから発見される傾向にあります。もしも40歳以上で不正出血のある方、閉経後の不正出血のある方は、集団検診ではなく、医療機関での受診をお勧めします。集団検診でも40歳以上、閉経後に不正出血に検診票にチェックのある方(本人記入)または本人の自覚がなくても医師が必要と判断される場合は結果通知ハガキで、体がん検診の受診のお知らせをしますので、必ず医療機関での受診をしていただきたいと思

早期発見すれば治癒率も高くなります。定期的な検診を受けましょう!